

オウム対策住民協議会ニュース

特集 監視活動はオウム真理教との対決の原点

オウム真理教への監視活動を開始したのは、地下鉄サリン事件から5年、教団への恐怖が冷めやらぬ時だった。監視は恐怖との闘いであつたが、オウム真理教の解散・解体を目指す住民は勇気を持ってオウム真理教の前に立ち上がった。今回は、昨年末から今年5月の監視日誌から抜粋した。

(一) 監視日誌より

- ・サマナ服の女性、食器盆持って2Fを移動。フジテレビの取材3名。上祐が不在で他の信者へのインタビュの為室内に入る。11月1日の公安調査庁の立入りの件の流れで来たとの事。カメラも外観は3階以上は撮らない様にしてあるとの事。
- 24/11/4
- ・雨の為詰所の中にいる。上祐が北海道に行っているからか出入りなし。
- 24/11/23
- ・以前と違って正面からではなく、右側の外階段を使って出入りしている。監視をさげているのか？詰所に貼って

あるステッカーを会の名称(現アレフ)を消した物と交換しては。記入用のバインダーを交換しては。

- 25/1/9
- ・12時からのセミナーに参加する信者がソロソロあつまる。男性、女性、若者もいる。この為居住している信者は南方面に迎えに出る。
- 3時頃セミナーが終了した様子で、信者達が旧甲州街道方面へ帰って行った。外観をカメラで撮影している人もいた。
- 25/1/27
- ・74才、71才の高齢者です。今日も寒さがきびしく2時間間は辛いです。小屋の場所を考えていただきたい。出来れば小屋の中の監視に

鳥山地域 オウム真理教対策 住民協議会

してほしい。

25/3/31

- ・今日は説法会の為出入りがなく静かです。
- (14:00) 部屋に入つて何を話しているのか(どういふ人がいるのか?) 確認しませんか?と誘われた。(14:30) 一緒に信者らしき人が出てきて挨拶された。上祐が2階の部屋へ移動し数人が道場から移動を始める。(15:30) 25/3/31
- ・雨風が激しく傘をさしていても飛ばされ全身がぬれてしまう状況。しばし詰所に待機して時々監視に行く。
- 雨風の日も、寒い日も、住民による監視が行われている事に意義があると思われます。住民が今でも昔の忌わしい事件の事を忘れずに、現在の団体の動向に関心を持っている事を示すことになると思います。見てい

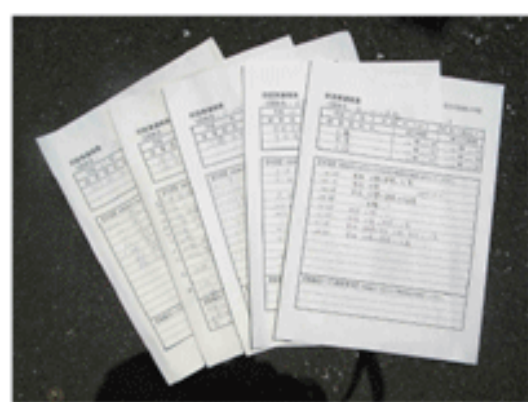


監視小屋

る限りでは部屋から部屋への移動はあるが、外出の様子は今のところ見られない。通行人に「雨風がひどいのもう終わりにしたら」と声をかけられる。

25/4/3

- ・ゴールデンウィークセミナーが大阪、名古屋で行われるとのこと。(10:45) 上祐が車に乗り込み出発。運転手、



監視当番日誌

上祐、女性信者2名、計4名乗車。

4月29日帰京予定。5月2日から東

(二) オウム真理教への抑止力になる監視活動

監視活動を始めて13年が経つ。活動は、年末・年始関係なく365日、町会・自治会、商店会、小・中学校PTA、青少年地区委員会など、地域活動団体が協力し合つて行ってきた。その間オウム真理教の活動を制御できたのも、監視の目が抑止力となった事は確かである。しかし長い年月の間に、オウム真理教対策住民協議会にも高齢化という問題も出てきたり、協力する団体の中

京でセミナーの予定。 25/4/27

・今日も暑い日。警察や公安の様な日照りを避けられる建物があると良いが、(寒い日、暑い日、雨・雪の日はどうするのか、止めにするのか)協力の仕方は他にないのか? (地域の取り組みとしては大切な事だが) いつもお茶の用意がしてあります。

- ・男女がピンク、グレー、グリーン等5色の作業服で動いている。上祐もグレーの作業服。2時40分 午前のセミナー終了後、歩行禅と称して野川公園まで車で移動、上祐を入れて24人。5月2日から5月6日「ひかりの輪」セミナーが行われる。2日は15人の参加。
- 25/5/2



オウム真理教を監視する

にも、先の見えない、終わらない運動に対する不満や、オウム真理教(アレフ)が居なくなつたにも拘わらず、監視活動を続ける意味を問うなどの不協和音が出て来ている。「継続は力なり」と続けて来た活動、困難はあるがその成果は大きい。これから監視活動を続けて行くには、その目的と意義をしっかりと話し合い、理解し合うことが必要である。又、続ける力をもつと多くの人、若い人たちへ繋げて行く事が大切である。個々の力では出来ない事が、協力し継続する事で、多くの成果が生まれた事を忘れてはいけない。さらに、住民協議会の活動である抗議デモ・学習会、監視活動、協議会ニュースの発行は、オウム真理教(アレフ・ひかりの輪)の解散・解体にはなくてはならない大切な活動なのである。

第8回 足立入谷地域の抗議デモ・集会に参加して【投稿】

5月26日(日)足立入谷地域オウム真理教(アレフ)対策住民協議会の抗議デモと、住民集会へ参加してきました。抗議デモの集合場所である公園に到着した時には、のぼり旗がはためき、大勢の住民が集結し盛り上がりを見せていました。抗議デモはオウム真理教施設まで、シュプレヒコールを叫びながら約1kmの行進です。施設前で、抗議文の手渡しの為、アレフ信者に外に出てくるように呼びかけたが、まったく反応がなく、一方的な抗議文の読み上げとなりました。デモ参加者は、オウム真理教の対応に悔しさをにじませ、口ぐちに「顔ぐらいみせろ」と叫び、デモの後半はオウム真理教の対応への憤りから、一層大声でのシュプレヒコールとなりました。住民集会は、元小学校体育館で行われ、興奮冷めやらぬ住民たちで埋め尽くされました。講師は、昨年NHKテレビで放映された「未解決事件オウム真理教」の制作に携わったNHK報道局社会部の記者の方で、綿密な取材活動に基づき、事実に基づいた話は説得力があり、参加者は抗議活動の確信を得ました。しかし、オウム真理教事件につ

いては報道関係者によって温度差があり、現場での番組制作には様々な困難があるようです。オウム真理教の被害にあわれた多くの方々がいる事、全国に未だオウム真理教の施設があり、反対活動をしている住民がいる事を考えていただき、様々な困難はあると思いますが、オウム真理教の解散・解体まで報道を続けていただきたいと思います。



「ひかりの輪」仙台施設取材

3月31日、仙台の「ひかりの輪」施設を見てきました。仙台駅から車で約20分、宮城野区東仙台にその施設がありました。近くには小学校・中学校があり、大きな建物もなく、戸建ての並ぶ閑静な住宅地の一角に、ごく普通の民家に個人の表札が出ていました。外からは「ひかりの輪」信者が居住する施設とは見受けられません。しかし、公安の方の話では、ここ仙台施設への入居は平成19年11月で、施設には出家1人が常駐し、週末在家は約10人、月一度代表が来る際はもう少し増えるとのことでした。

取材の日は日曜日であり、隣家の人やご近所の人に話を聞くことが出来ました。

- ・施設は個人名義で買取られたと聞いている。
- ・居住者が来た当時は「ひかりの輪」信者とは分からなく、時々説法会があると公安庁の人が見張りをするので、当然人の出入りが頻繁になり騒がしくなる。普段は静かなので危機感もないが、公安庁が来たり、時々取材

が入ると、やはり不安は感じる。

- ・2週間前には説法会があり、人の出入りが多かった。
- ・誰が住んでいるか顔を合わせることがないので、かつでのオウム信者かと不気味な感じである。

これまで各地のオウム真理教施設を取材してきましたが、個人の表札がかけてある所はほとんどありませんでした。多くの施設では、誰が入っているか分からないながら常に人の出入りが見受けられましたが、仙台施設はごく普通の個人の家と見え、住人の気配もなく、変わった印象を受けました。



住民協議会活動報告

5月26日(日) 第8回足立入谷地域オウム真理教対策
住民協議会抗議デモ・集会に参加
5月27日(月) 協議会ニュース126号初校正
6月1日(土) 第4回からすやま下町まつりで募金活動

6月3日(月) 協議会ニュース126号再校正
6月5日(水) オウム真理教対策関係市町村連絡会総会出席
6月6日(木) 事務局会議
6月11日(火) 協議会ニュース126号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。